東京都内で祭り復活　三社祭や神田祭、コロナ前規模に

#東京 #新型コロナ #関東

2023/5/2 5:00 [有料会員限定]

三社祭はコロナ感染拡大前の規模で開催する（写真は22年、浅草神社提供）

東京都内の祭りが今夏本格的に復活する。新型コロナウイルス禍で中止や規模縮小が続いていたが、8日からコロナの感染症法上の分類が「5類」に移行することなどを受けたもので、街に再びにぎわいが戻りそうだ。大国魂神社（東京都府中市）のくらやみ祭や住吉神社（東京都青梅市）の青梅大祭は、大型連休中に4年ぶりに開かれる。

コロナの感染拡大前は例年約20万人が訪れていた青梅大祭は2、3日に開催される。コロナ禍で3年間開催できなかった間、スポンサー離れや人件費の高騰などの問題に直面した。そこで感染対策などの運営費用をクラウドファンディングで調達した。

5類に移行する5月8日以降に開く祭りでは、マスクの着用を個人の判断に委ねる神社も多い。

浅草神社（東京・台東）は、東京の初夏の風物詩として知られる三社祭を19〜21日に開く。コロナ禍では本社神輿（みこし）を担がずにトラックに載せて運んだり、44町会のみこし約100基が繰り出す「連合渡御」を中止したりと、規模を縮小して内容を変更してきた。今年は4年ぶりにほぼコロナの拡大前と同規模で開催する。

神田祭は5月、コロナ前の規模で4年ぶりに開催する（写真は19年、神田明神提供）

関係省庁や地元と話し合いながら開催方針を決めた。5類への移行を受け、参加者や来場者のマスクの着用は個人の判断とする。三社祭は例年、200万人の観光客を集め、地域への経済波及効果も大きい。

江戸三大祭りの一つである神田明神（東京・千代田）の神田祭も5月、4年ぶりに通常の規模で開く。神田祭は2年に1度開かれるが、21年はコロナ禍で中止になっていた。

小池百合子都知事や都医師会の尾崎治夫会長を3月に招いて適切な感染対策について議論し、体調に問題がなければマスク着用は不要とする結論に至った。神田明神は「熱中症の危険が高いため、みこしを担ぐ際にはマスクを外すことを推奨している」という。（佐堀万梨映）

【関連記事】

・仙台・青葉まつり、4年ぶり通常規模での開催へ

・山形花笠まつり、「ヤッショ、マカショ」の掛け声復活

・高知のよさこい祭り、4年ぶり通常開催　高知大も会場に

ニュースレター登録